

長万部

留学プログラム



9月5日から9月12日にかけて、東京理科大学長万部キャンパスで1週間の疑似留学を体験する「長万部留学プログラム」が行われた。プレゼンテーション、シミュレーション、基礎工学部の先生方にグローバル言語研究所代表の村川久子先生を加えた教員計9名によって、英語の発声法、プレゼンテーション技法や理系分野の講義が英語により行われた。総数約60名の学生が参加し、このプログラムを通して各々の英語力の向上に取り組んだ。

プログラム初日

長万部を訪れて、最初に驚くことは駅に自動改札機がないことだ。そのため、新千歳空港駅で通したICカードは駅員の方が手で

鬼軍曹登場

長万部初日に受けた講義は、村川久子先生によるワークショップである。村川先生は自己紹介で自



▲ 長万部駅と留学生の皆

身のことを「英語の鬼軍曹」と呼ばれていと語った。最初は皆大げさだと思っていたことだろう。しかし始まったとみると、まさに鬼軍曹の名に相応しい厳しさだった。先生の講義のテーマは発音であり、日本人が特に苦労するRの発音だ。一人一人が完全にできるまで先生は全く妥協せず、声が小さい学生は立たせてアルファベット

Teachers of the British Council

かけがえないものですよ。」とおっしゃった。お世話になったのは、ブリティッシュカウンシルの3名の先生だ。英語力によつて3クラスに分けられ、Aクラスをギヤリー先生、Bクラスをサイモン先生、Cクラスをジェイミー先生が、それぞれ担当した。この講義は2日目から5日目にかけて行われて、コミュニケーションやディスカッション、プレゼンテーションの方法について学んだ。当然全てが英語で行われるので、先生の言うことが聞き取れず、何をしたいのかわからない学生もいた。それでも先生は慌てることなく、様々な工夫を用いて説明し、学生はそれを必死に理解しようとして講義についていく。講義はディスカッションを中心として行われ、学生同士で意見を交わし結論を出すことが求められる。例えば、様々な犯罪者についてどの程度の罪が妥当になるか、等である。ここでは「deserve(値する)」という単語が頻りに用いられ、皆口をそろえてdeserve

英語で科学を学ぶ

基礎工学部の秋山好嗣先生が金分子を用いた遺伝子診断について、古宮裕子先生がマグネシウム分子と胚発生について、山口武彦先生がVRを用いたアルツハイマー病の治療について、それぞれ講義を行ってくれた。どれもが専門的な講義で、全て英語で行われたため理解するのは難しかった。そのため、講義が終わった後の質問の手も活発に上がることはなかった。しかしこれらの講義を通して、英語で科学の勉強をするというのには本当に難しいことと、将来留学するつもりなのであればこれからも英語の勉強をより一層しなければいけない、ということが分かった。また日本人であっても、英語で専門的な講義を行える先生方の姿を見て、自分の将来をより強くイメージすることができた。学生も多かったようだ。

Night Activity

長万部キャンパスの英語の教員であるデイヴィッド



▲ プレゼンテーションの様子

最後の2日 6日目に行われたのは、学生一人一人によるプレゼンテーションだ。このプログラムで学んだことを生かして、全員が各々の選んだトピックについてプレゼンを行う。講義の合間や寝る時間を削ってといった厳しい制約の中で作ったものである。それでも全員がそれぞれ個性的なプレゼンを披露した。自分の学科について、趣味について、あるいは理想の夫婦像についてな



▲ キャンパス内の集合写真

最終日には、ここで得られた友人たちとともに長万部キャンパスを離れた。1週間の短い間ではあったが、英語力の向上、国際的な視野、新しい友人など、皆たくさんのものを手に入れることができた。今回のプログラムで指導して頂いた各先生方、それらに彩りをつけてくれた留学生の皆、そして今回のプログラムを企画し盛り上げてくれた本学国際化推進センターならびに国際支援課の皆さまに感謝の意を述べたい。

TusPress

新入部員募集中

tuspress@gmail.com

